

◆日程 2018年1月6日(土)～1月7日(日)

◆メンバー L：岡村、前田、小山田、小林(悦)

当初の予定は5日の夜発。しかし、天気予報が6日雪マークの為出発を後らせ、6日早朝発に変更した。「現在、アルペンクワッドは運転を見合わせております。」チケット売り場の方の言葉に一瞬自分の耳を疑う。さてどうなることやら？

### 1月6日(土) 天候：雪

「えっ？リフトが動いていない？唐松岳登れないって事？」折角ここまで来たのにと凹む私。

予定としては、先ずゴンドラ「アダム」に、次に、リフト「アルペンクワッド」を利用して八方池山荘前まで移動。しかし、そのリフトが動いていないと言うのだ。ここで様子見の待機か、もしくは行けるとこまで行って途中待機か？(皆で



相談) 「とりあえずは行ける所まで行ってみよう」とチケットを購入、ゴンドラに乗り込んだ。次はリフトだ。トイレを済ませ少しウロウロしていると、リフト運転再開の知らせが入った。安堵したのも束の間。私は、人生初乗車のリフトを前に少々ビビった「こんなデカイ荷物持ってアレに座るんかい？落っこちない？」私の心臓は拒否反応を起こしバクついた。(笑)大騒ぎしながらもなんとかクリア。

気持ち入れ替え「さっ、次に目指すはテント場だ。」今回は風の影響を考え八方山ケルンと第2ケルンの間にあるトイレを風よけにしてソコにテントを張る計画。前田さんにワカンの履き方を教えてもらい、小雪舞い散る中歩き始めた。少し歩くとさっきまで見えていたはずのケルンが一瞬にして見えなくなった。視界は真っ白。直ぐ先も全く見えない状態。皆でコンパス合わせ方角を確認し再び歩き始める。まだそんなに歩いてないはずなのに息は切れ身体はしんどい。脚は重いしザックも重い。登りはやはり苦手だ。

1時間程歩いただろうか。トイレの屋根がはっきりくっきりと視界に入ってきた。(ホッとした)当初、トイレ前にテントを張る予定だったが、その近くに以前誰かがテントを張ったであろう絶好の場所が。風よけもしてくれそう。拝借して我々もソコにテントを張る事に。

夕食は前田さんの用意してくれた「もつ鍋」です。時間も余り要せず温めるだけで美味しいもつ鍋が食べられるとは、なかなかの優れモノ。寒い冬は身体も温まり尚更に美味しい。テントの中で至福の時間を過ごしていた頃、外は段々と風と雪が強まりテントがパタついてきた。半端ない。テント丸ごと吹き飛ばされそうな勢い



です。不安になった。もしかすると台風より恐いかも・・・。

食後、明日の天気予報と行程を皆で確認。明日は4時30分起床。テントを撤収し荷物をデポ。6時出発。9時以降は晴れ予報。風さえなんとかなれば登頂も可能かも・・・。

(登頂できる事を願ひ早めの就寝)

しかし、風はなかなかおさまらず。それどころか益々強くなっている気さえする。

(これを吹雪と言うのだろうか?)

トイレに出るのもためらう程の尋常ではない強風だ。明日への期待と不安が入り混じりながら私は浅い眠りについた。

(記：小林)

CT：白馬八方尾根スキー場ゴンドラ乗り場 12:00＝八方池山荘 12:35/13:00

－八方山ケルン 13:30－テント場 14:00

## 1月7日(日) 天候：晴れ 強風

一晩中ものすごい風が吹きつけていた。天気も風もよくなるとの予報を頼りに、いつこの風が止むかとシュラフの中で期待していたが、起床時間の四時半になっても、状況は変わらず。昨日の予定では六時半に頂上へ出発のはずだったが、太陽が出れば風も変わるかもしれないと、しばらくテントで待つことにする。



陽が昇ってくると、景色の素晴らしさに寒さも忘れて、全員テントを出て見惚れていた。少し風もましになったので、撤収し、上を目指す、ということになった。荷物をトイレのあたりにデポし、登っていく。テント場にはほかにソロテントが三つあったただけだが、下からぼつぼつと人が登って来ている。

八方池あたりまでは、多少キツイながらも、時々立ち止まる程度で進んで行けた。その先からだんだん風の吹きつけがひどくなり、耐風姿勢をとることが多くなる。それでもなんとか丸山ケルンまでたどり着く。岡村さんが、「ここまできたら、あとは気持ちだから、行こう」という。たいして歩いていないのに、風の凄さで体は既にヘトヘトだったが、よし、と気合を入れなおした。ところが、その先がもうどうしようもないくらいの風だった。歩く時間より、耐



風姿勢をとっている時間のほうがはるかに長い。じりじりと進んで行つたが、先行している三人パーティが、進むも退くもできずに立ち往生しているのを見て、観念した。上の方の雪煙がすごい。我々も、その場にいるのが精いっぱいだ。ひとたび風が吹いてくると、下から吹き上げる雪で何も見えず、顔も上げられず、異世界に放り出されたような視界になる。岡村さんが皆の意思を確かめ、撤退を決める。先行パーティもようやくのことで戻ってきた。あちらも撤退のようだ。

雪煙舞う強風で、残念ながらここまで、

少し下りて疎らに木の生えているところで少し休む。ここの風はそよ風だね、と笑いあった。尻セードなど試しながらさらに下っていく。名残惜しく振り返りながら、上のほうで舞い上がる雪煙を眺め、あれでは進めない、と自分たちに言い聞かせつつ。

テント場に戻り、ビーコンやゾンデ棒を試してみたりしてから八方池山荘へ下りる。天気が良いからか、スキヤボードを担いだ人たちが続々と上がってきていた。下りのリフトに乗る、という面白い初体験をし、無事下山。

今回、目標の唐松岳まで届かなかったもの、強風が吹く中でのテント泊、雪と風の恐ろしさと美しさ、たいへん学ぶところが大きかった。 (記：小山田)

CT:テント場7:50ー八方池8:15ー丸山ケルン9:45ー最高到達地点(2500m付近)  
10:10ー八方池 11:20ーテント場 11:55/12:50ー八方池山荘 13:10=白馬八  
方尾根スキー場(末端) 14:00



不帰キレットから白馬三山 圧倒的なパノラマが広がった。